

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 高山市立東山中学校 (※正式名称を記載)  
種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>  
 中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校  
 教員養成大学  専修学校、各種学校  
 特別支援学校  
 その他 (例：小中高一貫 )  
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒506-0802  
岐阜県高山市松之木町 262 番地  
E-mail higashiyama@edu.city.takayama.gifu.jp  
Website www.city.takayama.gifu.jp/ga/higashiyama-j/index.html

幼児児童生徒数 男子 172名 女子 208名 合計 380名  
幼児・児童・生徒の年齢 13歳～15歳

## 2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

## 3. 活動内容

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、今年度「地域との協働」を学校の教育テーマとして、ESDを「郷土教育」と捉え、ESDの実践を通して、郷土の良さや課題を多面的に捉え、郷土の一員として積極的に郷土に関わろうとする姿勢や、社会でよりよく生きる力の育成を目標とした。

具体的には、「郷土の未来を語る会」(総合的な学習の発表会)を柱に、①地域を知る学習(1年生)、②地域と関わる学習(2年)、③地域の未来を考える学習(3年生)、④生徒会活動における地域との関わりとテーマを掲げて、学習に取り組んだ。

### ① 地域を知る学習(高山のよさと課題を知る)

地域・郷土の未来を考える生徒を育成するためには、まず地域を知ることから始めた。1年生では、高山研修と題して、地域に出て自然、高山の観光財産などをオリエンテーリング形式で歩きながら回り、実情を再確認した。その様子と、その後の再追究調査によって、高山のよさと課題をまとめる学習活動を行った。

### ② 地域と関わる学習(職業体験学習・名古屋研修)

2年生では、実際に地域に出て、職業体験を行った。また、地域の実情と都市の実情と比較を通して、地域を見つめることができるように名古屋研修を取り入れ、より地域で働くことについて、生徒の考えを深めるように取り組んだ。

### ③ 地域の未来を考える学習(東北学習旅行・郷土の未来を語る会)

3年生では、1・2年生の学習の土台のもと、今年度より学習旅行を東北地方

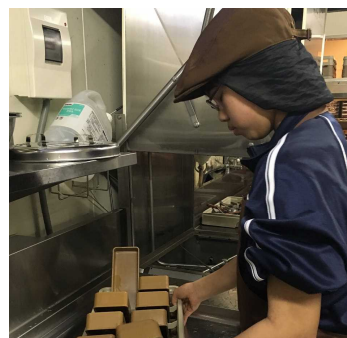
に目的地を変更し、東日本大震災の被災地を訪れ、復興に携わる方々の意志や生き方を学んだ。郷土の問題にどう向き合い、生きようとしているのか、その生き方について生徒は深く学ぶことができた。そこで学んだ生き方と自らの姿を比較しながら、再度地域の良さや課題を見つめ直し、今後高山がどのように発展していくといいのかを考え、話し合う活動を行った。特に今年度は、地域のまちづくりに携わる方を招いて、ディスカッションを行い、充実した学習を行うことができた。

#### ④ 生徒会活動における地域との関わり

総合的な学習で、郷土の未来を考える学習を通して、地域の一員として問題を解決しながら生きていく姿勢を学んでいく学習と並行して、自ら地域と関わる活動を今年度は生徒会を中心に行った。地域の清掃、挨拶活動、また地域の行事に参加することで、積極的に地域に関わる資質を育むように取り組んだ。



① 高山研修オリエンテーリング（1年生）



② 職業体験（2年生）



④ 郷土の未来を語る会（3年生・全校生徒）



③ 清掃ボランティアの写真（生徒会活動）

## （2）活動の詳細

### ① 活動内容

#### ア. 活動分野（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高山市関連ホームページ</li> </ul>
---

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

<p>教育課程において、郷土教育を要として、総合的な学習を中心に生徒会活動と連携させながら指導するように位置付けている。毎年、学習する中身を各学年で再構成し、より生徒の身近な問題として考えられるように、調査方法や講師の選定、学習場所の適切性を生徒の問題意識に重ねている。</p>
---

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ESD 主任のリーダーシップのもと、各学年で情報を共有しながら、取り組む環境をつくっている。</li> <li>・ 学習に参加協力していただいた講師の方や事業所などについては、その後も継続して参加していただけるように、情報を共有している。</li> </ul>
---

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

- ・地域の持続的な発展のための課題を解決するために、学習すべき内容を設定し、地域を巻き込んで話し合う活動が、今後の生徒の成長にとって、たいへん貴重な体験であり、効果的であった。（学校評価の職員評価より）
- ・県学習状況調査における郷土に関わる意識調査では、郷土に愛着をもつ項目において、ここ数年間ポイントは高い水準を維持している。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（200字程度）

※チェック事項 2-2 に対応

- ・ESD 推進拠点としての活動成果を発信する方法は、まだ十分に整っていない。
- ・「郷土の未来を語る会」を授業参観に設定しているので、保護者や地域には一部発信できている。
- ・中学生が地域の問題を捉えて、大人と共に考えを交流する意義については、相互に大きな意味があった。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）（200字程度）

※チェック事項 2-3 に対応

- ・まだ整っていない。今後検討する。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

- ・今後検討する。
- ・教育課程上、様々な学習があり、ESD だけを取り上げる時間的な余裕がない。世界の問題とつながる部分については、学習の中でつなげて考えるようにしたい。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

- ・ 持続可能な社会を目指し、解決が困難な問題に取り組もうとする姿勢を育んでいくためには、この4年間取り組んでいることにすごく価値があると実感している。
- ・ その重要性について、教職員の意識も変化しつつあるが、その学習内容を生み出す難しさが教員を苦しめている側面もある。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

- ・ 今年度と同様、「郷土教育」をESD教育の柱として取り組む。
- ・ 総合的な学習を中心にして、「郷土教育」に取り組む。
- ・ 12月に「郷土の未来を語る会」を計画、予定している。
- ・ 生徒会活動、学習の中で、地域との関わりを増やす。
- ・ 地域のまちづくり協議会に、学習した成果をもとに、中学生から様々な関わりを提案する。
- ・ 地域と都市、地域と世界など、地域と周囲の世界との比較を通して、批判的な思考を育成するよう工夫改善を行う。
- ・ 学習課題を、ESDで取り組むテーマとできる限り関連させる。
- ・ 学習の成果を地域等に発信させる場を検討する。